



賢く 優しく 逞しく



本校ホームページ

2月号・令和8年2月2日発行

武蔵村山市立第五中学校

「一年の学びを、次へつなぐ時期に」

校長 大野 博史

寒さの厳しい日が続いていますが、三学期も折り返しを迎え、今年度の学校生活はいよいよよまよめの時期となりました。一日一日が、学年の締めくくりであると同時に、次のステージへとつながる大切な時間です。

1月には、各学年で特色ある教育活動が行われました。1年生は、長野県菅平高原でのスキー移動教室に参加しました。中学校生活で初めての宿泊行事となるこの体験を通して、生徒たちは技術の向上だけでなく、仲間と支え合いながら生活することの大切さを学びました。ルールや時間を守り、自分に与えられた役割に責任をもって取り組む姿からは、3日間という限られた時間の中でも、着実な成長を感じることができました。

2年生は、上野・浅草方面での下町校外学習を実施しました。歴史や文化、人々の暮らしに触れる中で、公共の場でのマナーや集団行動の意義を改めて考える機会となりました。自分たちの行動が周囲に与える影響を意識することは、思いやりの心や生命を尊重する姿勢の土台となります。

3年生は、現在、受験という大きな課題に向き合っています。不安や緊張の中でも、互いを気遣い、励まし合いながら努力を続ける姿は、後輩たちにとって大きな手本です。自分の進路を真剣に考える経験は、自分の人生と向き合い、自らの生き方を見つめる大切な時間でもあります。

本校では今年度、「生命尊重と思いやりの心をもった生徒の育成」をテーマに研究を進めてきました。その成果を、2月13日（金）に研究発表としてまとめ、発信する予定です。生命を尊重するとは、特別な場面だけで意識するものではなく、日常の何気ない言葉や行動の積み重ねによって育まれるものです。友達の話に耳を傾けること、困っている人に手を差し伸べること、そして自分自身を大切にすること。その一つ一つが、思いやりの実践であると考えています。

2月は学年末考査を控え、学習面でも重要な時期です。結果だけにとらわれるのではなく、目標に向かって努力する過程や、自分を律して取り組む姿勢を大切にしてほしいと思います。また、寒さや疲れが重なる時期でもあります。生活リズムを整え、心身の健康を守ることも、生命を大切にすることの一つです。

残りわずかな今年度の日々が、生徒一人一人にとって実りあるものとなるよう、教職員一同、引き続き力を尽くしてまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、今後とも温かい御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。